

# NetBackup™ for SQLite 管理者ガイド

Windows および Linux

リリース 11.1

# NetBackup™ for SQLite 管理者ガイド

最終更新日: 2026-01-22

## 法的通知と登録商標

Copyright © 2026 Cohesity, Inc All rights reserved.

Cohesity, Veritas, Cohesity ロゴ、Veritas ロゴ、Veritas Alta, Cohesity Alta, NetBackup は、Cohesity, Inc またはその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。その他の会社名、製品名は各社の登録商標または商標です。

この製品には、Cohesity 社がサードパーティへの帰属を示す必要があるサードパーティ製ソフトウェア（「サードパーティ製プログラム」）が含まれる場合があります。サードパーティプログラムの一部は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスで提供されます。本ソフトウェアに含まれる本使用許諾契約は、オープンソースまたはフリーソフトウェアライセンスでお客様が有する権利または義務を変更しないものとします。このCohesity製品に付属するサードパーティの法的通知文書は次の場所で入手できます。

<https://www.veritas.com/about/legal/license-agreements>

本書に記載されている製品は、その使用、コピー、頒布、逆コンパイルおよびリバースエンジニアリングを制限するライセンスに基づいて頒布されます。Cohesity, Inc からの書面による許可なく本書を複製することはできません。

本書は、現状のまま提供されるものであり、その商品性、特定目的への適合性、または不侵害の暗黙的な保証を含む、明示的あるいは暗黙的な条件、表明、および保証はすべて免責されるものとします。ただし、これらの免責が法的に無効であるとされる場合を除きます。Cohesity, Inc およびその関連会社は、本書の提供、パフォーマンスまたは使用に関連する付随的または間接的損害に対して、一切責任を負わないものとします。本書に記載の情報は、予告なく変更される場合があります。

ライセンスソフトウェアおよび文書は、FAR 12.212 に定義される商用コンピュータソフトウェアと見なされ、Cohesityがオンプレミスまたはホスト型サービスとして提供するかを問わず、必要に応じて FAR 52.227-19 「商用コンピュータソフトウェア - 制限される権利 (Commercial Computer Software - Restricted Rights)」、DFARS 227.7202 「商用コンピュータソフトウェアおよび商用コンピュータソフトウェア文書 (Commercial Computer Software and Commercial Computer Software Documentation)」、およびそれらの後継の規制に定める制限される権利の対象となります。米国政府によるライセンス対象ソフトウェアおよび資料の使用、修正、複製のリリース、実演、表示または開示は、本使用許諾契約の条項に従ってのみ行われるものとします。

Cohesity, Inc  
2625 Augustine Drive  
Santa Clara, CA 95054

<http://www.veritas.com>

## テクニカルサポート

テクニカルサポートはグローバルにサポートセンターを管理しています。すべてのサポートサービスは、サポート契約と現在のエンタープライズテクニカルサポートポリシーに応じて提供されます。サ

ポート内容およびテクニカルサポートの利用方法に関する情報については、次の **Web** サイトにアクセスしてください。

<https://www.veritas.com/support>

次の URL で **Cohesity Account** の情報を管理できます。

<https://my.veritas.com>

現在のサポート契約についてご不明な点がある場合は、次に示すお住まいの地域のサポート契約管理チームに電子メールでお問い合わせください。

世界共通 (日本を除く)

[CustomerCare@veritas.com](mailto:CustomerCare@veritas.com)

日本

[CustomerCare\\_Japan@veritas.com](mailto:CustomerCare_Japan@veritas.com)

## マニュアル

マニュアルの最新バージョンがあることを確認してください。各マニュアルには、2 ページ目に最終更新日が記載されています。最新のマニュアルは、**Cohesity** の **Web** サイトで入手できます。

## Cohesity Services and Operations Readiness Tools (SORT)

**Cohesity SORT (Service and Operations Readiness Tools)** は、特定の時間がかかる管理タスクを自動化および簡素化するための情報とツールを提供する **Web** サイトです。製品によって異なりますが、**SORT** はインストールとアップグレードの準備、データセンターにおけるリスクの識別、および運用効率の向上を支援します。**SORT** がお客様の製品に提供できるサービスとツールについては、次のデータシートを参照してください。

[https://sort.veritas.com/data/support/SORT\\_Data\\_Sheet.pdf](https://sort.veritas.com/data/support/SORT_Data_Sheet.pdf)

# 目次

第 1 章	NetBackup for SQLite の概要 .....	6
	NetBackup for SQLite について .....	6
	NetBackup for SQLite でサポートされる機能 .....	7
	NetBackup for SQLite Agent のマニュアル .....	7
	NetBackup for SQLite の前提条件 .....	7
	NetBackup のインストール後の要件 .....	8
第 2 章	NetBackup for SQLite の構成 .....	9
	DataStore ポリシーを使用した SQLite バックアップの構成 .....	9
第 3 章	NetBackup for SQLite のバックアップおよびリスト ア .....	11
	SQLite データベースのバックアップについて .....	11
	SQLite バックアップの実行 .....	12
	バックアップ情報の検証 .....	13
	バックアップの問い合わせ .....	14
	NetBackup カタログファイルからのバックアップ情報の削除 .....	14
	SQLite バックアップのリストアについて .....	15
	SQLite バックアップのリストアの実行 .....	16
	リダイレクトリストア .....	16
	ディザスタリカバリ .....	17
第 4 章	NetBackup for SQLite のトラブルシューティング .....	18
	NetBackup for SQLite Agent 使用時のエラーのトラブルシューティング .....	18
付録 A	NetBackup for SQLite のコマンドおよび規則 .....	23
	NetBackup for SQLite Agent コマンドについて .....	23
	NetBackup for SQLite Agent コマンドの表記規則について .....	23
付録 B	NetBackup for SQLite のコマンド .....	25

nbsqlite -o backup .....	26
nbsqlite -o restore .....	27
nbsqlite -o query .....	28
nbsqlite -o delete .....	29
<b>索引</b> .....	<b>30</b>

# NetBackup for SQLite の概要

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup for SQLite について](#)
- [NetBackup for SQLite でサポートされる機能](#)
- [NetBackup for SQLite Agent のマニュアル](#)
- [NetBackup for SQLite の前提条件](#)

## NetBackup for SQLite について

NetBackup for SQLite Agent は、NetBackup の機能を拡張したもので、SQLite データベースのバックアップとリストアを行います。このエージェントは、SQLite バージョン 3.10.0 以降をサポートします。

NetBackup for SQLite は NetBackup クライアントで使用できます。

---

**メモ:** すべての NetBackup ホストが、バックアップ操作およびリストア操作が正常に行われた NetBackup のバージョンと同じであることを確認します。

---

このエージェントは、さらに以下もサポートします。

- バックアップの検証。
- バックアップとリストアの問い合わせ。
- カタログファイルからのバックアップ情報の削除
- リストアのリダイレクト。

## NetBackup for SQLite のワークフロー

エージェントは、単一のデータベースファイルがあるボリュームのスナップショットを作成します。Windows 用のボリュームシャドウコピーサービス (VSS)、または Linux 用の LVM (Logical Volume Manager) は、SQLite データベースのスナップショットを作成します。

エージェントは、スナップショットをマウントしてファイルを XBSA データオブジェクトにコピーしてから、NetBackup XBSA インターフェースにそれを送信します。NetBackup XBSA インターフェースは、NetBackup メディアサーバーが管理する、マウントされたメディアまたはディスクストレージにこのデータを書き込みます。

LVM が構成されていない Linux オペレーティングシステムの場合、エージェントはデータベースファイルをファイルシステムから直接コピーします。

## NetBackup for SQLite でサポートされる機能

表 1-1 に、エージェントがサポートする機能を示します。

表 1-1 エージェントでサポートされる機能

機能	説明
バックアップ	エージェントは、SQLite データベースの単一ファイルベースのバックアップをサポートします。
リストア	エージェントは、SQLite バックアップファイルのリストアをサポートします。
リダイレクトリストア	エージェントは、代替 NetBackup クライアントへの SQLite バックアップファイルのリストアをサポートします。

## NetBackup for SQLite Agent のマニュアル

NetBackup for SQLite Agent のマニュアルは、次の URL から入手できます。

[www.veritas.com/support/en\\_US/article.DOC5332](http://www.veritas.com/support/en_US/article.DOC5332)

## NetBackup for SQLite の前提条件

次の前提条件を満たしていることを確認します。

- NetBackup がインストールされ、プライマリサーバー、メディアサーバー、クライアントで稼働中である。
- SQLite データベースがインストールされ、クライアントで稼働中である。

---

**メモ:** NetBackup を以前のバージョンからバージョン 10.1 以降にアップグレードする場合、NetBackup クライアントも対応する NetBackup バージョンにアップグレードする必要があります。

---

## NetBackup のインストール後の要件

インストール後に次を実行します。

- **(Windows)** バックアップおよびリストアを実行しているユーザーに、管理者権限があることを確認します。
- **(Linux)** バックアップおよびリストアを実行しているユーザーが、スーパーユーザーである、またはスーパーユーザー権限を持っていることを確認します。

# NetBackup for SQLite の構成

この章では以下の項目について説明しています。

- [DataStore ポリシーを使用した SQLite バックアップの構成](#)

## DataStore ポリシーを使用した SQLite バックアップの構成

エージェントは、属性、スケジュール、クライアントリスト、バックアップ対象を定義するために、DataStore ポリシーをサポートします。

**DataStore ポリシーを使用して SQLite データベースバックアップを構成するには**

- 1 プライマリサーバーに管理者 (Windows) または root ユーザー (Linux) としてログインします。
- 2 [NetBackup 管理コンソール (NetBackup Administration Console)]で、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ポリシー (Policies)]の順にクリックします。
- 3 [すべてのポリシー (All Policies)]ペインで、[すべてのポリシーの概略 (Summary of All Policies)]を右クリックして、[新しいポリシー (New Policy)]をクリックします。
- 4 [新しいポリシーの追加 (Add a Policy)]ダイアログボックスで、ポリシーの一意の名前を入力します。
- 5 [ポリシーの変更 (Change Policy)]ダイアログボックスで、[ポリシー形式 (Policy Type)]ドロップダウンリストから[DataStore ポリシー (DataStore Policy)]を選択します。
- 6 [ポリシーストレージ (Policy Storage)]ドロップダウンリストで、ストレージのディスクベースのストレージユニットを選択します。

- 7 スケジュール形式を選択するには、[スケジュール (Schedules)] タブで [OK] をクリックして、[アプリケーションバックアップ (Application Backup)] スケジュール形式を選択します。

---

**メモ:** XBSA フレームワークは、[アプリケーションバックアップ (Application Backup)] スケジュール形式のみをサポートします。

---

- 8 [クライアント (Clients)] タブで [新規 (New)] をクリックして、NetBackup for SQLite Agent を持つ NetBackup クライアントを追加します。
- 9 [クライアントの追加 (Add Client)] 画面で [新規 (New)] をクリックし、SQLite サーバーを持つクライアントの名前を入力します。
- 10 NetBackup 管理コンソールで、[NetBackup の管理 (NetBackup Management)]、[ポリシー (Policies)] の順にクリックして既存のポリシーリストのポリシーを表示します。

# NetBackup for SQLite の バックアップおよびリストア

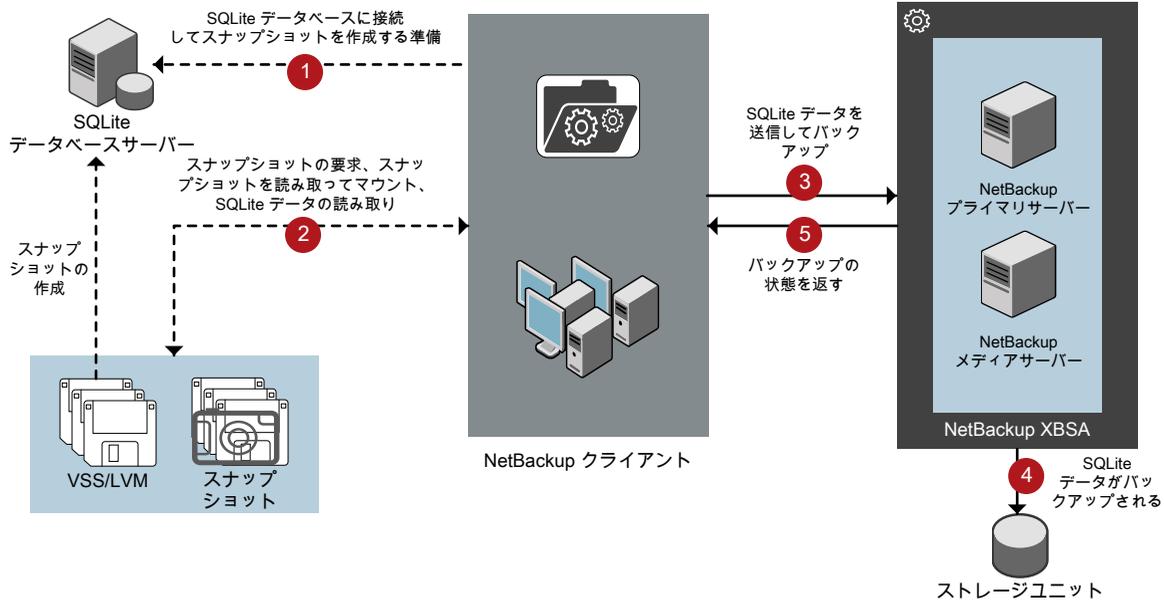
この章では以下の項目について説明しています。

- [SQLite データベースのバックアップについて](#)
- [SQLite バックアップの実行](#)
- [バックアップ情報の検証](#)
- [バックアップの問い合わせ](#)
- [NetBackup カタログファイルからのバックアップ情報の削除](#)
- [SQLite バックアップのリストアについて](#)
- [SQLite バックアップのリストアの実行](#)
- [リダイレクトリストア](#)
- [ディザスタリカバリ](#)

## SQLite データベースのバックアップについて

`nbsqlite -o backup` コマンドは、`-S`、`-P`、`-d`、`-s` の必須パラメータを使用して、バックアップ操作を開始します。パラメータ `-z` は、Linux LVM を構成したシステムの必須パラメータです。

図 3-1 NetBackup for SQLite のバックアップのワークフロー



## NetBackup for SQLite のバックアップのワークフロー

バックアップの開始時、NetBackup クライアント (nbsqlite) はスナップショットを作成し、スナップショットをマウントし、XBSA データオブジェクトにファイルをコピーします。その後エージェントは、NetBackup XBSA インターフェースにファイルを送信します。

NetBackup XBSA インターフェースは、NetBackup メディアサーバーが管理する、マウントされたメディアまたはディスクストレージにこのデータを書き込みます。

コマンドプロンプトには、バックアップの正常な完了状態が表示されます。アクティビティモニターには、バックアップジョブの状態も表示されます。

## SQLite バックアップの実行

### 前提条件

バックアップを実行する前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- ユーザーに管理者 (Windows) または root (Linux) のアクセス権があることを確認します。
- (Windows) ユーザー変数パスに NetBackup¥bin ディレクトリを設定します。
- NetBackup 管理コンソールから DataStore ポリシーを構成します。
- (LVM) ボリュームグループ内にスナップショット用の十分な空き領域があることを確認した上で、スナップショットのサイズをコマンドラインで設定します。

---

**メモ:** スナップショットのサイズが、バックアップするファイルのサイズの 110% であることを確認します。

---

### バックアップを実行するには

- 1 nbsqlite コマンドラインでパラメータを構成します。
- 2 次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o backup
-S primary_server_name
-P policy_name
-s schedule_name
(Linux) -z snapshot_size
-d sqlitedb_db_path
```

### NetBackup からの SQLite バックアップのスケジュール設定

SQLite バックアップのスケジュール設定は、DataStore ポリシーを使用してバックアップスクリプトを呼び出すことで、NetBackup 管理コンソールから実行できます。

詳しくは、[https://www.veritas.com/support/en\\_US/article.100041699](https://www.veritas.com/support/en_US/article.100041699) を参照してください。

## バックアップ情報の検証

バックアップが成功した後、次のコマンドを使用して、バックアップを一覧表示してバックアップ情報を確認できます。

```
nbsqlite -o query
```

## バックアップの問い合わせ

`nbsqlite -o query` コマンドは、指定したオプションに従ってバックアップファイルを一覧表示します。

パラメータ `-s` は必須パラメータです。代わりに、別のクライアントとポリシーを定義する `-c` および `-P` オプションを使用して、バックアップを問い合わせることもできます。

バックアップを問い合わせるには

- 1 `nbsqlite` コマンドラインでパラメータを構成します。
- 2 次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o query -S primary_server_name [-C ClientA] [-P  
policy_name]
```

たとえば、クライアント `ClientA` からバックアップを問い合わせるには、次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o query -S primary_server_name [-C ClientA]
```

たとえば、ポリシー名 `policy_name` を使用してバックアップをリストするには、次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o query -S primary_server_name [-P policy_name]
```

たとえば、ポリシー名 `policy_name` を使用してクライアント `ClientA` からバックアップを問い合わせるには、次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o query -S primary_server_name [-C ClientA] [-P policy_name]
```

## NetBackup カタログファイルからのバックアップ情報の削除

削除用の `nbsqlite` コマンドは、カタログファイルからバックアップ情報を削除しますが、バックアップファイルは NetBackup メディアサーバーに保持します。パラメータ `-s` および `-id` は、必須パラメータです。

バックアップを削除するには

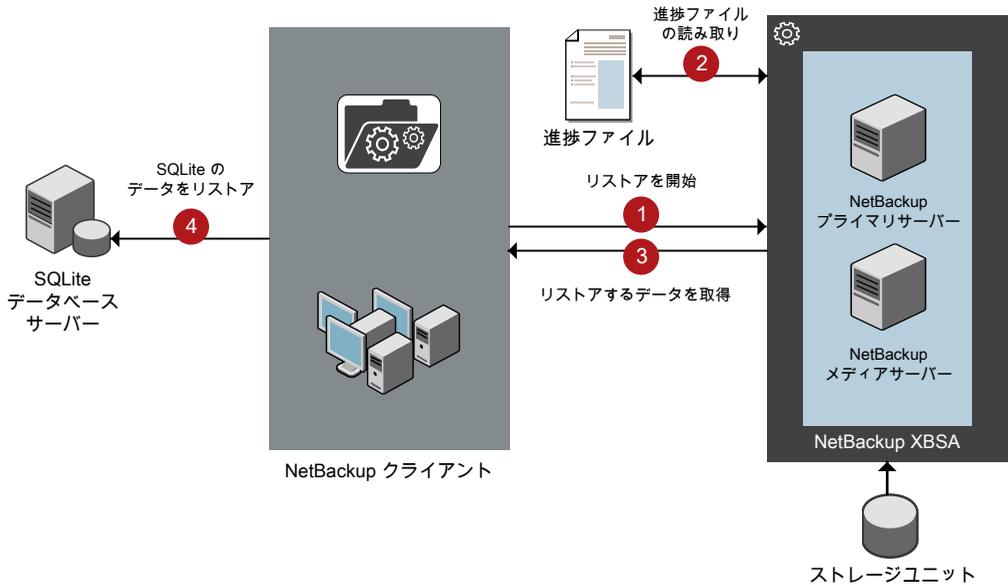
- 1 パラメータを構成するか、コマンドラインで指定します。
- 2 次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o delete -S primary_server_name -id db_backup_image_name
```

## SQLite バックアップのリストアについて

リストア用の `nbsqlite -o restore` コマンドは、`-s` および `-t` の必須パラメータを使用してリストア操作を開始します。パラメータ `-id` および `-c` はオプションのパラメータです。パラメータ `-id` は、指定したバックアップイメージ名を使用してバックアップをリストアします。パラメータ `-c` は、指定したクライアントにあるすべてのバックアップを一覧表示します。クライアントを指定しない場合は、デフォルトで **NetBackup** プライマリサーバーが指定されます。

図 3-2 NetBackup for SQLite のリストアのワークフロー



### NetBackup for SQLite のリストアのワークフロー

リストアの開始時、エージェントはコマンドライン引数を読み取ります。

エージェントはその後、**NetBackup XBSA** インターフェースを介し、指定したパラメータに基づいてバックアップを取得します。

**NetBackup XBSA** インターフェースは進捗ファイルを読み取って **SQLite** バックアップファイルを受信し、それらをターゲットディレクトリにリストアします。

コマンドプロンプトには、リストアの正常な完了状態が示されます。アクティビティモニターにも、リストアジョブの状態が表示されます。

## SQLite バックアップのリストアの実行

### 前提条件

リストアを実行する前に、次の前提条件を満たす必要があります。

- ユーザーに管理者 (Windows) または root (Linux) のアクセス権があることを確認します。
- (LVM ユーザー) データログとログディレクトリが、論理ボリューム上にあることを確認します。

バックアップをリストアするには

- 1 パラメータを構成するか、コマンドラインでパラメータを指定します。
- 2 次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o restore -S primary_server_name -t target_directory  
[-id db_backup_image_name] [-C client_name]
```

## リダイレクトリストア

リダイレクトリストアでは、最初のバックアップを実行したクライアントとは別のクライアントに、バックアップファイルをリストアできます。新しい場所には別のホストや別のファイルパスを指定できるほか、別のリダイレクトリストア名を使用することもできます。別のホストにリストアをリダイレクトするには、install\_path¥NetBackup¥db¥altnames ディレクトリにターゲットクライアント名を含めます。

### リダイレクトリストアの実行

代替ホストへリストアをリダイレクトする方法

- 1 ホストとして NetBackup クライアント名を指定し、リストアをリダイレクトするディレクトリとして SQLite ターゲットディレクトリを指定します。
- 2 NetBackup プライマリサーバーで、リダイレクトリストアの実行権限を付与するホストに対して altnames ディレクトリを作成します。たとえば、別のホストからのリストアを行う権限を Host B に付与するには、次のファイルを作成します。
  - (Windows) install\_path¥NetBackup¥db¥altnames¥HostB
  - (Linux RHEL および SLES) /usr/opensv/netbackup/db/altnames/HostB

- 3 `altnames` ディレクトリに、要求元クライアントがリストアを要求するファイルが存在するクライアントの名前を追加します。たとえば、Host A からリストアをリダイレクトする権限を Host B に付与するには、Host B のファイルに Host A を追加します。

---

**メモ:** (Linux のみ) NetBackup サービスユーザーアカウントには、`altnames` ディレクトリとホストファイルの所有権が必要です。

---

- 4 次のコマンドを実行します。

```
nbsqlite -o restore -S primary_server_name -t target_directory  
-id db_backup_image_name] [-C client_name]
```

---

**メモ:** リダイレクトリストアの場合は、ソースクライアント名 (バックアップ元のクライアント) を `-c` オプションに指定します。

---

- 5 リダイレクトリストアが正常に実行されたら、プライマリサーバーとクライアントで行った変更を元に戻します。

## ディザスタリカバリ

ディザスタリカバリは、災害時のデータ損失に備えてデータの回復を計画することです。エージェントは、ディザスタリカバリ戦略としてリダイレクトリストアをサポートします。

詳しくは、p.16 の「[リダイレクトリストア](#)」を参照してください。

# NetBackup for SQLite のトラブルシューティング

この章では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup for SQLite Agent 使用時のエラーのトラブルシューティング](#)

## NetBackup for SQLite Agent 使用時のエラーのトラブルシューティング

### 問題を解決するための一般的なガイドライン

[表 4-1](#) に、エージェントの使用中に発生する可能性がある問題を解決するのに役立つ、一般的な手順を示します。

表 4-1 エラーを解決するための一般的な手順

手順	操作	操作
手順 1	エラーメッセージの確認.	通常、エラーメッセージは、適切に行われなかった処理を示しています。コマンドラインにエラーメッセージが表示されなくても、問題が発生している疑いがある場合、ログやレポートを確認します。これらに、問題を直接示すエラーメッセージが含まれている場合があります。ログとレポートは、トラブルシューティングに不可欠な手段です。

手順	操作	操作
手順 2	問題発生時に実行していた操作の確認。	次について質問します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 試行された操作。</li> <li>■ 使用した方法。</li> <li>■ 使用していたサーバープラットフォームおよびオペレーティングシステムの種類。</li> <li>■ サイトでプライマリサーバーとメディアサーバーの両方を使用している場合、プライマリサーバーとメディアサーバーのどちらであるか。</li> <li>■ クライアントの種類 (クライアントが関連する場合)。</li> <li>■ 過去にその操作が正常に実行されたことがあるかどうか。正常に実行されたことがある場合、現在との相違点。</li> <li>■ Service Pack のバージョン。</li> <li>■ 最新の、特に NetBackup を使用する際に必要な修正が行われたオペレーティングシステムソフトウェアを使用しているかどうか。</li> <li>■ デバイスのファームウェアのバージョン。公式のデバイス互換性リストに示されているバージョン以上かどうか。</li> </ul>
手順 3	すべての情報の記録。	重要になる可能性がある情報を入手します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ NetBackup のログ。</li> <li>■ NetBackup for SQLite ログに固有のログ。</li> <li>■ NetBackup XBSA に固有のログ。</li> </ul>
手順 4	問題の修正。	問題を特定した後、情報を使用して問題を修正します。
手順 5	ベリタスのテクニカルサポートにお問い合わせください。	エラーを解決できない場合は、テクニカルサポートにお問い合わせください。

## ログを使用したエラーのトラブルシューティング

エラーのトラブルシューティングを行うには、NetBackup のログを参照してください。これらのログは次の場所にあります。

**NetBackup** プライマリサーバーのログは次の場所にあります。

- `install_path¥NetBackup¥logs¥bprd`
- `install_path¥NetBackup¥logs¥bpcd`
- `install_path¥NetBackup¥logs¥user_ops¥dbext¥logs`

bprd と bpcd のログファイルを有効にする必要があります。詳しくは『NetBackup トラブルシューティングガイド』を参照してください。

**NetBackup** クライアントに固有のログは次の場所にあります。

- install\_path¥netbackup¥logs¥nbsqlite

NetBackup XBSA に固有のログは次の場所にあります。

- <NetBackup\_install\_path>/netbackup/logs/exten\_client

NetBackup のエラーのトラブルシューティングについては、『NetBackup トラブルシューティングガイド』および『NetBackup コマンドリファレンスガイド』を参照してください。

## NetBackup for SQLite のエラーのトラブルシューティング

表 4-2 では、操作の実行中に発生するエラーと、問題のトラブルシューティング方法の一覧を示します。

表 4-2 NetBackup for SQLite のエラーのトラブルシューティング

エラー	説明	解決方法
nbsqlite のバックアップが次のエラーで失敗します。 <i>xbsa.dll</i> をロードできません ( <i>Unable to load xbsa.dll</i> )	ユーザー環境変数パスが NetBackup の bin ディレクトリに更新されていない場合、nbsqlite のバックアップが失敗します。	nbsqlite のバックアップを正常に実行するには <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ユーザー環境変数パスを NetBackup_install_path/bin に更新します。</li> </ul>
nbsqlite のバックアップが状態コード 7648 で失敗します。	安全な接続のためのホスト検証が失敗すると、バックアップが失敗する場合があります。  しばらくしてからバックアップ操作が終了し、ジョブの状態が nbsqlite コマンドプロンプトに表示されます。	有効なプライマリサーバー名とホスト名を構成していることを確認してください。
nbsqlite のバックアップが次のエラーで失敗します。 <i>XBSA</i> を開始できませんでした ( <i>XBSA initiation failed</i> )  または <i>XBSA</i> オブジェクトの作成に失敗しました ( <i>Failed to create XBSA object</i> )	コマンドラインに必須パラメータが指定されていない場合、nbsqlite バックアップが失敗します。	バックアップを正常に実行するには: <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 有効なプライマリサーバー名、ポリシー名、スケジュール形式をコマンドラインから構成します。</li> <li>■ nbsqlite エージェントと NetBackup プライマリサーバーとの間で通信エラーがないかどうかを確認します。詳しくは、『NetBackup 管理者ガイド Vol. 1』を参照してください。</li> </ul>
(Windows) VSS スナップショットの作成に失敗しました ( <i>VSS snapshot creation failed</i> )	nbsqlite 操作を実行する権限をユーザーが持っていない場合、nbsqlite のバックアップが失敗することがあります。	管理者モードで cmd.exe を実行します。

エラー	説明	解決方法
<p>nbsqlite のリストア操作を実行しても、ターゲットの NetBackup クライアントからデータをリストアできません。</p>	<p>NetBackup のクライアント名とターゲットディレクトリが更新されていない場合、nbsqlite のリストアが失敗します。</p>	<p>リストアが成功した場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ リストアを NetBackup ソースクライアントから開始します。</li> <li>■ NetBackup のクライアント名とターゲットディレクトリのパラメータを設定します。</li> </ul>
<p>nbsqlite のバックアップが次のエラーで失敗します。</p> <p>(Linux) LVM のスナップショット作成中にエラーが発生しました (<i>Error creating LVM snapshot</i>)</p>	<p>ボリュームグループにスナップショット用の十分な容量がない場合、nbsqlite のバックアップが失敗することがあります。</p>	<p><b>ボリュームグループの容量を確認するには、次のコマンドを使用します。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b>    <code>\$vgs</code>  コマンドによりボリュームグループの詳細が表示されます。</li> <li><b>2</b>    適切なスナップショットサイズを指定します。スナップショットは、バックアップファイルのサイズと同等以上のサイズでなければなりません。</li> </ol>
<p>正常なバックアップ後のエラーメッセージ:</p> <pre>&lt;volume_group&gt;/&lt;snapshot_name&gt; 0 / 4096 (29393616896) 後の読み取りエラー: 入力エラーまたは出力エラー。 (&lt;volume_group&gt;/&lt;snapshot_name&gt; Read failure after 0 of 4096 at 29393616896: input or output error.)</pre> <p>または</p> <pre>&lt;volume_group&gt;/&lt;snapshot_name&gt; 0 / 4096 (4096) 後の読み取りエラー: 入力エラーまたは出力エラー。</pre>	<p>(<code>&lt;volume_group&gt;/&lt;snapshot_name&gt;</code>: <code>read failure after 0 of 4096 at 4096: input or output error.</code>) ボリュームグループにスナップショットが含まれる場合に、nbsqlite のバックアップからこれらのエラーが返されます。バックアップを再度実行する前に、スナップショットを一覧表示してから削除できます。</p>	<p><b>スナップショットを削除するには:</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b>    既存のスナップショットを一覧表示するには、次のコマンドを実行します。  <code>\$lvs</code>  コマンドによりスナップショットの詳細が表示されます。</li> <li><b>2</b>    スナップショットを削除するには、次のコマンドを実行します。  <code>\$ lvremove -f &lt;volume_group&gt;/&lt;snapshot_name&gt;</code></li> </ol>

エラー	説明	解決方法
<p>Linux (LVM) の nbsqlite バックアップが次のエラーで失敗します。</p> <p>スナップショットのマウント解除中にエラーが発生しました - デバイスまたはリソースがビジー状態です  <i>(Error unmounting the snapshot-Device or resource busy)</i></p> <p>または</p> <p><i>snapshot-sqlitesnap_&lt;timestamp&gt;</i> の削除中にエラーが発生しました  <i>(Error removing the snapshot-sqlitesnap_&lt;timestamp&gt;)</i></p>	<p>スナップショットやデバイスをマウント解除しようとしたとき、または既存のスナップショットを削除するときに、nbsqlite のバックアップが失敗します。</p>	<p>スナップショットをマウント解除するには</p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> 次のコマンドを使用して、マウントされているすべてのファイルシステムをリストします。   <code>\$ mount-l</code></li> <li><b>2</b> スナップショットがまだある場合は、次のコマンドを実行します。   <code>\$unmount&lt;mount_directory&gt;</code>  <b>メモ:</b> このディレクトリは /mnt/&lt;snapshot_name&gt; に作成されません。スナップショットの接頭辞名は sqlitesnap です。</li> <li><b>3</b> スナップショットを手動で削除するには、次のコマンドを実行します。   <code>lvremove -f &lt;volume_group&gt;/&lt;snapshot_name&gt;</code></li> </ol>

# NetBackup for SQLite のコマンドおよび規則

この付録では以下の項目について説明しています。

- [NetBackup for SQLite Agent コマンドについて](#)
- [NetBackup for SQLite Agent コマンドの表記規則について](#)

## NetBackup for SQLite Agent コマンドについて

このセクションでは、`nbsqlite` 操作の実行に利用可能なコマンド、オプション、パラメータについて説明します。コマンドそれぞれの操作の簡単な説明、必須パラメータ、オプションパラメータが含まれています。エージェントは、このドキュメントで説明するコマンド、オプション、およびパラメータのみをサポートしています。

以下を確認します。

- `nbsqlite` コマンドラインでパラメータを設定します。
- 操作形式 (-o) は、`nbsqlite` コマンドラインに設定します。
- その他のパラメータや、それぞれの操作に対応するオプションは、`nbsqlite` コマンドラインで設定します。

## NetBackup for SQLite Agent コマンドの表記規則について

このドキュメントのエージェント固有のコマンドの説明では、次の表記規則が適用されます。

次のコマンドをコマンドラインインターフェースで実行して、結果を確認してください。

- コマンドラインに `-help` コマンド (`-h`) オプションだけを指定すると、コマンドラインの使用方法が出力されます。次に例を示します。

```
nbsqlite -h
```

- 角カッコ `[]` 中のコマンドラインの要素は、必要に応じて指定します。それ以外のパラメータは必須です。
- 斜体は、ユーザー指定による変数を示します。たとえば、ポリシー名とスケジュール名をバックアップ操作に指定します。

```
nbsqlite -o backup -S primary_server_name -P policy_name -s schedule_name
```

## NetBackup for SQLite のコマンドのオプション

表 A-1 に、`nbsqlite` 操作のオプションを示します。

表 A-1 nbsqlite コマンドのオプション

オプション	説明
-C	リダイレクトリストア用の <b>NetBackup</b> クライアントの名前を構成します。
-d	<b>SQLite</b> データベースパスを構成します。
-h	これが <code>nbsqlite</code> コマンドラインに指定された唯一のオプションの場合は、ヘルプの使用方法を表示します。
-id	バックアップイメージ名を使用して、指定したバックアップを構成します。
-o	操作形式 (バックアップ、リストア、問い合わせ、削除) を構成します。
-P	<b>DataStore</b> ポリシーを構成します。
-s	<b>NetBackup</b> のスケジュールを構成します。
-S	<b>NetBackup</b> プライマリサーバーを構成します。
-t	データをリストアするターゲットディレクトリを構成します。
-z	LVM のスナップショットサイズを構成します。

# NetBackup for SQLite のコマンド

この付録では以下の項目について説明しています。

- [nbsqlite -o backup](#)
- [nbsqlite -o restore](#)
- [nbsqlite -o query](#)
- [nbsqlite -o delete](#)

# nbsqlite -o backup

nbsqlite -o backup – NetBackup クライアントからバックアップ操作を実行します。

## 概要

```
nbsqlite -o backup  
-S primary_server_name  
-P policy_name  
-s schedule_name  
(LVM) -z snapshot_size  
[-d sqlite_db_path]
```

## 説明

このコマンドは、NetBackup DataStore のポリシー名とスケジュール形式を使用して、NetBackup クライアントからバックアップ操作を起動します。パラメータ `-s`、`-d`、`-P` は、Windows では必須パラメータです。パラメータ `-z` は、LVM ユーザーの必須パラメータです。

Windows では、ディレクトリパスは `/usr/opensv/netbackup/bin` です

Linux システムでは、ディレクトリパスは `install_path¥NetBackup¥bin` です

## オプション

- d SQLite データベースに接続するためのパスを構成します。
- P NetBackup DataStore ポリシーの名前を構成します。
- s NetBackup サーバー名を構成します。
- s DataStore ポリシー用に構成したスケジュール名を指定します。
- z (LVM バックアップ) LVM のスナップショットのサイズを指定します。

# nbsqlite -o restore

nbsqlite -o restore – NetBackup サーバーからバックアップファイルをリストアします。

## 概要

```
nbsqlite -o restore  
-S primary_server_name  
-t target_directory  
[-id db_backup_id]  
[-C NetBackup_client_name]
```

## 説明

nbsqlite コマンドは、-t および -s の必須パラメータを使用して、バックアップファイルをリストアします。-id と -c はオプションのパラメータです。

**Windows** システムでは、このコマンドへのディレクトリパスは install\_path¥NetBackup¥bin です。

**Linux** システムでは、このコマンドへのディレクトリパスは /usr/opensv/netbackup/bin です

## オプション

- c クライアント名を指定します。
- id  
Specifies the backup image name.
- s NetBackup サーバー名を構成します。
- t ターゲットディレクトリを指定します。

# nbsqlite -o query

nbsqlite -o query – SQLite データベースに対して実行されるバックアップを問い合わせます。

## 概要

```
nbsqlite - o query  
-S primary_server_name  
[-P policy_name]  
[-C client_name]
```

## 説明

nbsqlite -o query コマンドは、-s の必須パラメータと、-c および -p のオプションパラメータを使用してバックアップを取得します。

**Windows** システムでは、このコマンドへのディレクトリパスは  
install\_path¥NetBackup¥bin¥ です。

**Linux** システムでは、このコマンドへのディレクトリパスは /usr/opensv/netbackup/bin/  
です

## オプション

- c 指定したクライアントのすべてのバックアップを取得して一覧表示します。
- p 指定したポリシー名のすべてのバックアップを取得して一覧表示します。
- s NetBackup プライマリサーバーを構成します。

## nbsqlite -o delete

nbsqlite -o delete – NetBackup カタログファイルからバックアップ情報を削除します。

### 概要

```
nbsqlite -o delete  
-S primary_server_name  
-id db_backup-id
```

### 説明

nbsqlite -o delete コマンドは、NetBackup カタログファイルからバックアップ情報を削除しますが、バックアップはストレージメディアに保持します。

パラメータ -s と -id は、必須パラメータです。

### オプション

- id  
バックアップイメージ名を使用して、バックアップを指定します。
- s NetBackup プライマリサーバーを構成します。

## 記号

スナップショット 7

デフォルトのアプリケーションバックアップ 9

バックアップ

    LVM が構成されたシステム 12

    バックアップイメージ 12

    バックアップ情報 12

    パラメータ 12

    削除 12

    検証 12

前提条件 7

単一ファイル 7

## D

DataStore ポリシー 9